

| Ref | Items | Index-term |
|-----|-------|-----------------|
| E1 | 1 | PN=JP 59028990 |
| E2 | 1 | PN=JP 59028991 |
| E3 | 1 | *PN=JP 59028992 |
| E4 | 1 | PN=JP 59028993 |
| E5 | 1 | PN=JP 59028994 |
| E6 | 1 | PN=JP 59028995 |
| E7 | 1 | PN=JP 59028996 |
| E8 | 1 | PN=JP 59028998 |
| E9 | 1 | PN=JP 59028999 |
| E10 | 1 | PN=JP 59029000 |
| E11 | 1 | PN=JP 59029001 |
| E12 | 1 | PN=JP 59029002 |

Enter P or PAGE for more

?

S E3

S2 1 PN='JP 59028992'

?

T S2/9/ALL

2/9/1

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI

(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

003932493

WPI Acc No: 1984-078037/198413

XRAM Acc No: C84-033316

XRPX Acc No: N84-058287

Skin sheet smoothing device - smooths crumpled tube-shaped skin to be applied to covering cushion of e.g. sponge for car seat

Patent Assignee: TOKYO SHEET KK (TOLS)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

| Patent No | Kind | Date | Applicat No | Kind | Date | Week |
|-------------|------|----------|-------------|------|----------|----------|
| JP 59028992 | A | 19840215 | JP 82139444 | A | 19820811 | 198413 B |

Priority Applications (No Type Date): JP 82139444 A 19820811

Patent Details:

| Patent No | Kind | Lan | Pg | Main IPC | Filing Notes |
|-------------|------|-----|----|----------|--------------|
| JP 59028992 | A | | 5 | | |

Abstract (Basic): JP 59028992 A

Appts. smooths out a crumpled skin sheet shaped like a tube having an opening at one end. The sheet is usable for covering a raw cushion mat mat of sponge, for e.g. to produce car seats. Before finishing the seat, the sheet must be smoothed out completely.

A fan is placed in a hollow base (1) to produce compressed air. The base also contains a water vapour sprayer for producing a water vapour and a switch for connecting either the fan or sprayer to a smoothing frame having the same shape as the final shape of the skin sheet.

Title Terms: SKIN; SHEET; SMOOTH; DEVICE; SMOOTH; CRUMPLE; TUBE; SHAPE;

SKIN; APPLY; COVER; CUSHION; SPONGE; CAR; SEAT
Derwent Class: F07; Q39
International Patent Class (Additional): B68G-015/00; D06F-073/00
File Segment: CPI; EngPI
Manual Codes (CPI/A-N): F03-J02; F04-D03; F04-E03
?

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—28992

⑬ Int. Cl.³
B 68 G 15/00
// D 06 F 73/00

識別記号
1 0 1

庁内整理番号
6501—3B
7614—4L

⑭ 公開 昭和59年(1984)2月15日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑮ 車両シート用表皮部材の皺伸装置

⑯ 発明者 別所康源

鴻巣市滝馬室986

⑰ 特 願 昭57—139444

⑰ 出 願 人 東京シート株式会社

⑱ 出 願 昭57(1982)8月11日

朝霞市栄町3丁目7番27号

⑲ 発 明 者 納富浩

⑲ 代 理 人 弁理士 新関宏太郎

川越市南田島1580—2

明 細 書

1. 発明の名称

車両シート用表皮部材の皺伸装置

2. 特許請求の範囲

中空のボディに圧風発生用の風車と、蒸気噴出装置と、圧風と蒸気との切替装置と、表皮部材の装着部とを設け、該装着部は圧風によりシート状に膨らむ構成とした車両シート用表皮部材の皺伸装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、車両シート用表皮部材の皺伸ばし装置に係るものである。

車両用のシートは、スポンジのようなクッション部材の表面に布、革、レザー等の表皮部材が被せられるが、これらの表皮部材は、予め、

皺を伸ばしておかないと、仕上で後から皺伸ばししてもなかなか伸びないので、仕上げが非常に悪くなる。

この発明は、表皮部材の皺を伸ばす装置についてなされたものである。

どのような点について発明されたのかというと、皺伸ばし装置に表皮部材を嵌める型台となる挿入部分を、伸縮自在で、膨らむと、シート of 型となるように工夫し、もって、表皮部材を被せる操作をすこぶる容易にしたものである。

又、前記したように構成したことによって、表皮部材が隅から隅まで型にぴったり密着して、もって、どこにも皺がない表皮部材とすることができるようにしたものである。又、本発明は、挿入袋を膨らませるエアーにつき、蒸気と熱

風とを交互に使用できるようにしたものである。

本発明は、中空のボディに圧風発生用の風車と、蒸気噴出装置と、圧風と蒸気との切替装置と、表皮部材の装着部とを設け、該装着部は圧風によりシート状に膨らむ構成とした車両シート用表皮部材の延伸装置としたものである。

図により説明すると、1はボディであり、ボディ1は薄鉄板により中空状態に形成されている。ボディ1の側面2の室3内には、風車4が設けられ、他側5の室6の上面には上方を向いている吹出口7が形成される。ボディ1の一端2と他端5の中央部は室3より室6に至る風路34が形成され、その風路34中に加熱パイプ9が設けられる。吹出口7の上面には多孔部材

3

部17の上端部にはラセン部18の上端を接合する。ラセン部18は噴出筒10の真上位置に形成される。

前記パイプ15の垂直部17の下端寄りからは分岐パイプ19が設けられ、分岐パイプ19の下端に渦巻部20が形成される。渦巻部20は、吹出口7に取付けられる。

噴出筒10の上端面には噴出孔21が形成され、噴出孔21には開閉バルブ22が設けられる。該バルブ22は上下回動杆23に取付けられ、上下回動杆23は、その一端が固定棒24に軸着25され、その他端にロッド26の上端が結合され、ロッド26の下端はリンク27の一端に結合され、リンク27は中央部が底板13に軸着28され、リンク27の他端にはソレ

5

で形成された挿入筒8が取付けられている（挿入筒8は取付ないときもある）。挿入筒8の下端開口部は吹出口7と接続されていて、風車4よりのエアーが吹出口7を通過して挿入筒8内に吹き込まれるようになっている。

前記吹出口7の中心部には吹出口7に比べて小径の垂直の噴出筒10が設けられている。噴出筒10の上端11は、挿入筒8の上下の中心位の高さに形成されており、下端12はボディ1の底壁13に接合している。室6内において、前記挿入筒8の下端部の外壁部には蒸気の吹込用パイプ14が接続している。又、挿入筒8の外壁部に蒸気取出パイプ15の下端部16が接続しており、該蒸気取出パイプ15は垂直部17を有して挿入筒8内を垂直に上昇し、垂直

4

ノイド29が取付けられる。30は配電盤、31は切替レバーである。前記挿入筒8の外側には、布製の挿入袋32が被せられていて、その下端は吹出口7に結合されている。又、33は表皮部材である。

次に作用を述べる。

風車4を回転させると、その風で挿入袋32はシートの形状に膨らむが、風車4を回転させないときは、挿入袋32は小さくしぼんでいるから、袋状に形成されたシートの表皮部材33を容易に被せることができる。然して、表皮部材33を挿入袋32の上に被せた状態のち、切替レバー31を操作して風車4を回転させると、外気を吸引し、風路34を経て吹出口7より挿入筒8内にエアーを吹込み、挿入筒8の目を

6

通して吹き出ることにより挿入袋32をふくらませる。すると、挿入袋32に被せられている表皮部材33は共に膨らんで、そのシワが取れる。このとき、配電盤30の操作により、風路34中の加熱パイプ9を加熱すると、吹出口7より吹き出す風は熱風となり、又ソレノイド29に通電すると、リンク27、ロッド26を介して開閉バルブ22を開放するので、その噴出孔21より蒸気を噴出する。したがって、これらの操作を巧みに組合せると、表皮部材33は場合により蒸気で場合により熱風で膨らませるので完全に皺が取れるものである。

本発明は以上の構成及び作用のうち、特に、中空のボディに圧風発生用の風車と、蒸気噴出装置と、圧風と蒸気との切替装置と、表皮部材の

装着部とを設け、該装着部は圧風によりシート状に膨らむ構成とした車両シート用表皮部材の皺伸装置の構成としたので、表皮部材33の装着がすこぶる容易になると共に、挿入袋32により表皮部材33を膨らませるので、あたかも風船のようになって皺がよく伸びる特徴を有する。また、蒸気と熱風とを交互に使用して皺を取るようにしたので、一層よく皺が取れる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は全体の側面図、第2図は挿入袋を取付けた全体の側面図、第3図は右側面図、第4図一部縦断側面図である。

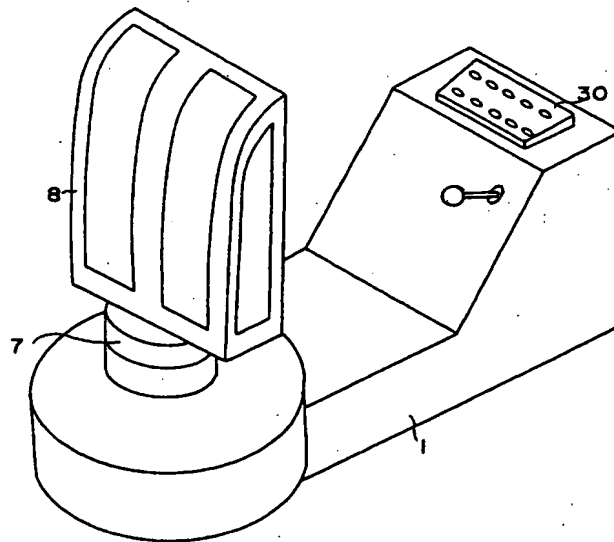
7は吹出口、32は挿入袋、33は表皮部材、

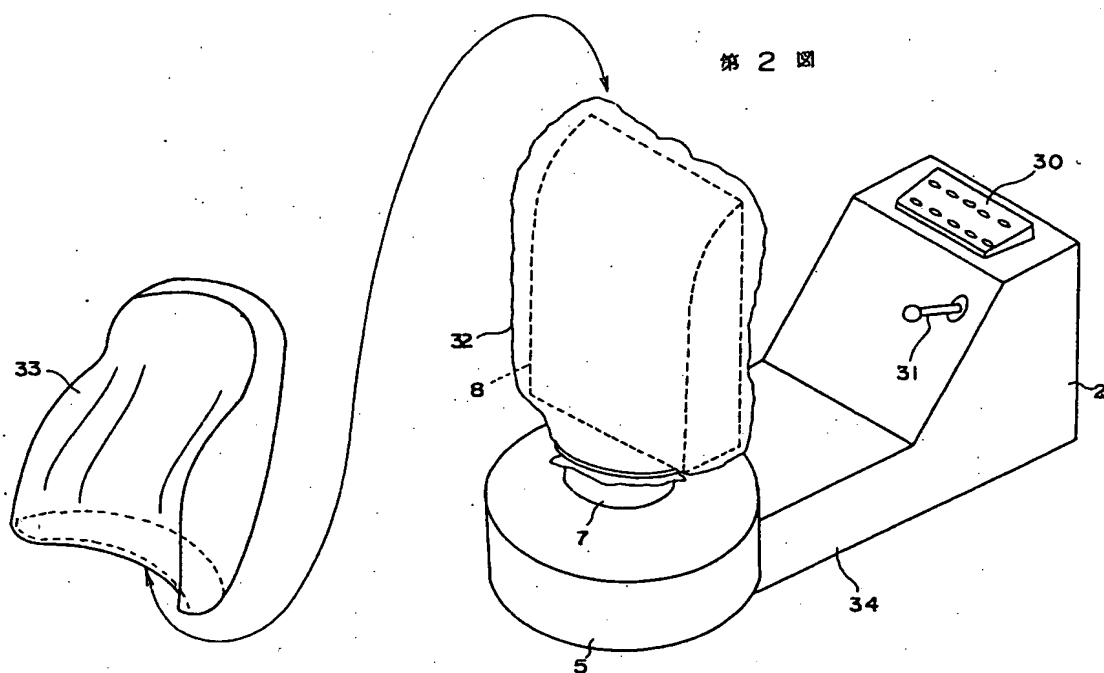
特許出願人 東京シート株式会社

7

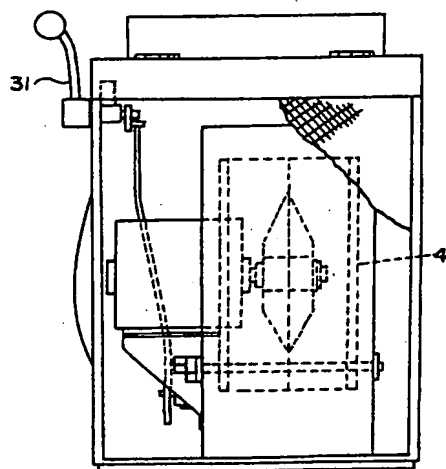
8

第1図





第 3 圖



第 4 図

